

# のんた

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう!

21

山口の土地改良

vol.21  
Winter 2019

●巻頭特集

やまぐちの「農の偉業」探訪④

萩市 福栄4台

4つの溶岩台地に描く、農の夢  
「ブルースカイヒルネットワーク」

入選作品のご紹介

第20回食料・環境・ふるさと

写真コンテスト

入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」

子ども絵画展2018

●特集II

みんなで守ろう!

活用しよう!

棚田地域振興法Q&A

●まんが

まんがで紹介する

土地改良のお仕事③



食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議

# やまぐちの「農の偉業」探訪④ 萩市 福栄4台



## 4つの溶岩台地に描く、農の夢 「ブルースカイヒルネットワーク」

取材・文：石井里津子

「ここがまた萩市でなく、福栄村時代にね。ブルースカイヒルネットワーク構想のもと、4つの溶岩台地をつないで、観光や体験など活性化に生かそうと考えたんですよ。道路も整備していったね」  
案内をしてくれた福栄土地改良区理事長の白神崇さんが、車の運転をしながら早口にそう語り、愉快そうに笑った。  
——その構想はどうなったんですか？  
「そのあと、萩市に合併したからね。日の目を見てない」  
山口県阿武郡福栄村が萩市となったのは、平成の大合併の時（平成17年3月）だ。「ブルースカイヒルネットワーク構想」が夢見た、4台のネットワークによる活性化は構築されぬまま時が流れた。  
そもそも萩市の大部分は、火山の噴火でできた大地である。萩市北東部には、活火山である「阿武火山群」が広がり、その数約50。過去の噴火が約200万年前から約1万年前に起こり、小さな溶岩台地がいくつも誕生した。

溶岩台地は、吹き出した溶岩がテーブル状に広がり、固まったもの。そこは水さえ届けば、水田にもなり、広大な農地となった。人々は、その青き空を映す大地にどんな夢を描いてきたのだろう。  
旧福栄村で現在、農業が盛んな溶岩台地は4箇所。「福栄4台」ともいわれる平蕨台、羽賀台、平原台、長沢台。いずれも昭和後半に水が届くようになり、農業が花開いた。白神理事長の案内で4つの台地を訪ねた。

1 平蕨台空撮。2000年頃のもの。この作物は美味しい。米も火山地帯特有の味で、食味の数値も高く、美味しいと評判。土壌が良いだけでなく、昼夜の温度差が大きく、甘みが違う  
写真提供：萩市福栄総合事務所

2 長沢台。牧草は、イタリアンライグラス、スーダングラスを栽培。6月に蒔いて、8、9月に収穫。そして10月にもまた蒔く  
撮影：伊達千絵

3 羽賀台空撮。2000年頃のもの。標高約310m。羽賀台のすぐ下は日本海。そのため、潮風で葉っぱは傷んでしまい、不向き。かつては、ハウスでイチゴの苗栽培も。だが、県内産のイチゴ栽培の減少に伴い、3年前にやめたという  
写真提供：萩市福栄総合事務所

4 平原台周辺写真。まん中の山は、紫雲山。向かって左手が平原台になる。平原台の標高は140mほど。写真に映る棚田は横貝地区  
撮影：伊達千絵

### 雲海が美しい平蕨台、オリブの産地に

萩の旧市内から車で40分。今回紹介する福栄4台のうち、もっとも山陽寄り、山口市内から1時間ほどのところに平蕨台はある。標高350〜400メートルほどに位置し、朝の雲海が美しく、知る人ぞ知るビュースポットだ。  
戦後、国の開拓事業によって拓かれた。昭和26年、開拓団入植、開墾。以前からリンゴ栽培など畑作もあったが、一度、すべて国有地となり、開拓後に払い下げ

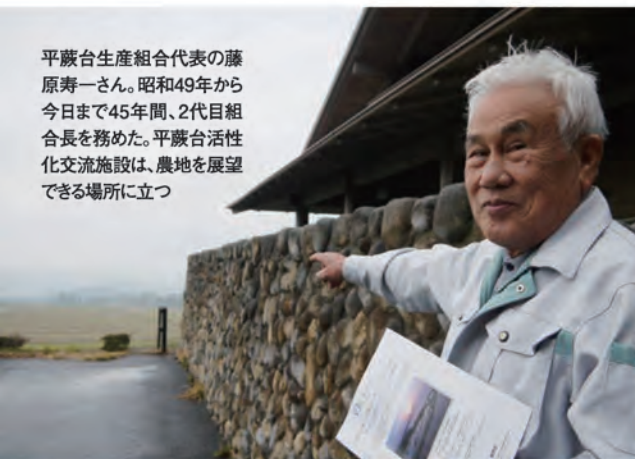
られた。当時、この飲み水は雨水。井戸も1箇所のみ。水はなかった。約10軒が入植したというが、去って行った人もいる。

昭和43〜48年、県営総合農地開発事業で佐々連川より約100メートル下から揚水し（高低差、県内一）、受益地約100ヘクタールの農地が造成された。だが、昭和45年に減反政策。100ヘクタールの水田誕生を夢見ていたにもかかわらず、水田になったのは、わずかに17・5ヘクタールだった。国策を前に、地元は辛酸をなめざるを得なかった。

「とくに入植者にとっては、水田にするのが夢じゃったから」  
農事組合法人平蕨台生産組合代表の藤原寿一さん（昭和18年生）が言う。

昭和47年、生産組合を立ち上げ、キャベツ、白菜、人参、馬鈴薯などさまざまな作物に取り組んできた。過去には、葉タバコも盛んに。収穫後、白菜を作ることで、収入につながった。葉タバコの需要が減ると、牧草栽培へ移ってきた。今も47人が地主（5集落）だが、不在地主が多くなってしまった。もう10年で何軒残るかという状況で、組合もたたむ

平蕨台生産組合代表の藤原寿一さん。昭和49年から今日まで45年間、2代目組合長を務めた。平蕨台活性化交流施設は、農地を展望できる場所に立つ



覚悟をした。そんななか、大阪に本社を置く農事組合法人が入り、オリーブ栽培がはじまった。

すでに50ヘクタールほどがオリーブ畑に転じて3年目。オリーブは、採算が合うまでに10年はかかるという。オリーブの若木が、行儀良く等間隔で並ぶ一角が目に残った。

「いずれせんぶオリーブになるでしょう。オリーブがなかったら荒地になっていたでしょうね。父親の代には一生懸命開拓して、夜も寝んと農業をやったけれど、若い人は……もう農地への愛着心がないんです。荒らさないために良い機会でした。地元の人間じゃなくても、農地を守ってくれるほうが、ずっとええです」



3年目のオリーブの若木。オリーブの木が成長すると、景観も変わっていくそうだ

### 白菜、キャベツ、ネギ ……実り豊かな羽賀台

次に羽賀台へ向かった。羽賀台は、萩城まで8キロメートルといい、天保年間（1831〜1845）には毛利公の練兵場にもなった。その際、毛利敬親が鞍をかけた「鞍掛松」（現在は2世）が農地のなかに今も残っている。

「昭和43年から農業構造改善事業で工事は始まり、昭和44年に作付けがスタート。その前は、原野と畑で、スイカや大根、リンゴなどを作っていました。昭和30年代に初代の組合長たちが、設計したら水が上がるのがわかって、開拓できかねえと話をしていたそうですが、そして工事ははじまったんですが、

### クリの観光農園から ブドウの産地に、平原台

羽賀台をあとにし、平原台へ。農事組合法人平原台農業生産組合（平原台農園）組合長の阿座上和徳さん（昭和26年生）が待っていてくれた。夏場は、ブドウを買い求める人で賑わう農園事務所も、シーズンオフの冬場はがらんとしていた。

「昭和38年の豪雪を契機に、農園がはじまりました。クリを植えて、所得を上げようと。もともと国がここを買いあげて、軍工場を造ろうとしていたのを戦後の払い下げで農業地帯にした場所です」

昭和42年に農業法人平原台生産組合が設立。農業収益を上げるために、みんなで合資会社をつくり、クリ拾いなど観光農園をはじめた。クリに着目したのは、栽培が簡単で、元手がいらぬことから。昭和46年、ブドウを試験的に育ててみると、うまくいった。ブドウは所得につながり、クリは衰退していく。だが、ブドウ栽培を展開させるには、水が必要だった。ちょうど総合基盤のパイロット事業が入り、ポンプで水を引くことができた（昭和57〜58年、農村基盤総合整備パイロット事業）。さらに、ハウス栽培にすることで経営が安定。旧福栄村の補助を活用し、可能になったという。

今、売り上げの半分は直売である。北海道から沖縄まで2,000人の顧客を持つ。昔からのパンフレット販売や口コミで広まった。現在は、値崩れしないお盆までに、ほとんど売ってしまうのだとか。今は、代替わりもしたが、初代組で現



埼玉県川越市からタンの荻野賢二さん。旧福栄村の新規就農者塾に参加したことを機に2000年、34歳の誕生日、平原台に家族で移住。ハウスでトマトやキュウリなどを作り、露地で白菜、ブロッコリー、馬鈴薯など。環境が良く、子育てにちょうど良かったという。「農地が荒れてきたら、せつかくのすばらしい環境が台無しです。ですから、オリーブ畑へと変わっていくのも、ぼくは賛成です」と、新規就農者用住宅前で

ほんの1年遅かったら、減反政策で米づくりができなくなるところでした。ここは100%水田として造成されました」

農事組合法人羽賀台共同生産組合、組合長の藤田芳昭さん（昭和26年生）が言う。水田造成が17・5%となった平原台と、運命をわけた1年となった。

平成11年に組合法人を立ち上げた。年間雇用が必要になり、また米の単価が下がるに連れ、野菜の面積を増やしてきた。白菜やキャベツ、ネギなど露地物が多い。ここは冬、霜が降りる。冬の白菜などは、自ら凍らないう糖を出す。だから、冬場は甘みが増しておいしい野菜になる。

「米はここ2〜3年、水不足。川からの揚水を一度、堤に入れますが、雨も雪も減っています。米面積はかつて30ヘクタールでしたが、20ヘクタールにし、野菜が10ヘクタールです。



1月中に出す白菜は、種は8月頭に蒔き、9月頭に植え付けたもの。羽賀台のネギは、甘く、人気



最近霜が降りるのが遅くなり、白菜も遅く植えて遅く出荷するよう変えてきた

役の人もある。90歳だ。これまでハウスが雪で潰れたこともあり、それをきっかけにやめた人もいるという。一方で、Iターン者も来た。現在は、個人で観光農園を設け、ワインもつくっている。

「今、組合は4軒だけ。かつては10軒です。わたしは今68歳で、一番若い。高齢化の時代、維持していくのがたいへんです。しかも、後継者不足。でも、守っていかないとけんじやろ」

阿座上さんは、語気を強めた。



ブドウはハウスのなかで栽培し、柿は露地



羽賀台共同生産組合 組合長、藤田芳昭さん。畑の作物を一つ一つ確認する



平原台農業生産組合、2代目組合長、阿座上和徳さん。昭和42年から阿座上さんのお父さんが初代組合長を務めた



定年退職した息子さんと一緒に柿栽培をしている初代の人もあるという

**県内トップの黒毛和牛の産地、長沢台**

人気の黒毛和牛「長萩和牛」が育つ、長沢台。この牛肉は、東京、大阪方面への出荷をはじめ、2016年山口県長門市で開かれた日露首脳会談のディナーにも出された。現在、繁殖牛100頭、育成牛8頭、子牛60頭、肥育牛180頭が9棟の牛舎と牧場で暮らす。萩市最大の規模を誇る。繁殖牛と肥育牛を一環してやっている牧場としては、県内トップ。

農事組合法人長沢台生産組合代表理事の水津元廣さん(昭和26年生)は、「繁殖は毎月10頭生ませるのが理想。出産は目が離せない。今はこんなものも使うよ」といながら、おもむろにタブレットPCを取り出した。そして、設置カメラの映像を次々と確かめていく。牛舎にカメラを設置しているのだ。出産間近な雌牛には、破水するとセンサーで知らせる装置も導入。万全の体制を取っている。

長沢台は、昭和52年に農村基盤総合整備パイロット事業の一環で開発がスタートした。昭和57年に畜産団地として始動。昭和59年に農事組合法人に。

現在、13ヘクタールの牧草に、3ヘクタールの水田も抱える4戸9人の法人だ。高級肉を育てる現場というだけでなく、地元農家と、エサとなる稲わらと牛糞による堆肥を交換し、循環型農業を推進していることも、ここの特徴である。



長沢台生産組合代表理事の水津元廣さんは、山口県家畜人工授精師会会長でもある。手にしているのは、分娩予定の雌牛につける器具

稲わらのロールは、直径120センチメートル、重さ200キログラム。それが1シーズンに約1,000個。

「堆肥は、稲わらを出してくれた農家に700トンほど届けています。そのほか、萩市の小中学校や保育園にも無償で提供しています。牛糞の堆肥があることで、地力がつくんです。地元農家と連携してやっていますが、農家が減っていくなか、こうした循環型農業も継続が問題になってきているんです」



長沢台の標高は370m。冬場、水道を凍らせないようにしなければならぬという。「とにかく牛に水を飲まさないかんから」



水津さんは鳴き声で牛たちの区別がつくという。肥育牛は「長萩和牛」。商標登録をして、8年目。令和元年、岡山・山口合同牛枝肉研究会で最優秀賞に輝くなど、輝かしい成績を持つ

**食がブルースカイヒルをつなぐ**

福栄4台を耕してきた農家は、整備事業後の土を1年1年、石ころを取り除き、粉殻を敷き込むなど、耕作土を育ててきた。そして、長沢台から出る牛糞の活用で、より地力をつけてきた。かたや、牛たちは、地元の牧草や稲わらで育ち、名を上げてきた。「まもなく平蔵台へ向かう道路が広がり、大型バスが入るようになります。将来は、平蔵台にある交流施設「夢のーら



写真左、福栄土地改良区理事長、白神崇さんは、平蔵台を展望できる交流施設「夢のーら」のウッドデッキで、藤原さんと夢を語り合った

る雲海」を拠点に、都市から人が来るようにしたいね」

先の白神理事長がそう話す。「夢のーら」の白神理事長は、今も、わらび採りなどイベントの拠点である。

「平蔵台のオリープをここで絞る体験もできたり、オリープを生かしたレストランもできれば、いいですよ。オリープを絞った粕は、長沢台の牛のエサにもなる。そして、その美味しい肉をここで食べられる！ そうなると最高じゃないですか」

美味しい野菜や米は、羽賀台から。デザートには平蔵台のブドウ、柿を生かす。そして、地元のエサで育った、長沢台の牛肉。まなざしを上げれば、平蔵台の眺望が広がって……。

「そうなるよ、面白い！」

4台をつなぐ道路も現在工事中で、まもなく開通するという。食を通して、点在していた農地がつながり、互いを補完し合い、一つの農の世界に人々を誘う。まさに、福栄4台の農のネットワークが生まれ出す、食と農のテーマパークの誕生だ。「ブルースカイヒルネットワーク」。

今、その響きが腑に落ちた。

第20回  
**食料・環境「水・土・人・暮らし」**  
ふるさと写真コンテスト

一般の部  
入賞作品のご紹介

20th Furusato Photography Contest



**山口県知事賞**

『お手伝い』 下関市菊川 谷野 隆 (山陽小野田市)

下関で行なわれた餅つきの様子です。外では餅つきを手伝っており、家の中では餅を並べる役割の子が頑張っています。年上の子がやり方を教えている所が微笑ましいです。



**山口県地球人会議会長賞**

『雄叫び』 長門市通 黒木丸生 (下関市)

長門市通で行なわれるくじら祭りの一コマです。最後にくじらを仕留めて雄叫びをあげている所をねらいました。



**水土里ネット山口会長賞**

『黄金輝く秋の空』 周南市中須北 清流の里 廣中作次 (下松市)

刈入れ直前の稲田の黄金穂穂に秋の朝雲が印象的でした。



【夕昏の小径】 山口市阿東徳佐 船平山 広田和夫 (宇部市)

夕方から咲き誇るユスゲの花径に心癒されます。人を点景としてスケール感を出しました。



【茶摘み】 宇部市藤河内 秦 保博 (宇部市)

宇部市八十八夜お茶まつりでの1コマです。お茶の新芽を摘み取る少女達の笑顔がさわやかでした。



【教えておじいちゃん】 下関市菊川 森木泰代 (下関市)



【夕照の里】 山口市秋穂 尾崎ヒサ子 (防府市)

夕日の里、牛がのんびりと草を食べていました。



【ふるさとの神楽】 山口市小郡上郷 西藤克己 (宇部市)

山口市指定無形民俗文化財「岩戸神楽」である。地方の祭りや民俗文化財が後継者不足から廃れていく中で、この神楽には大勢の子どもが出演し、完璧な演技を披露する。その下地には幼い頃から神楽を見に来ていることがあるのだろう。その証しとも言える舞台の翁の所作に興味津々の子どもたちを撮った。



【夕映の異星人】 宇部港 金子幸子 (宇部市)

逆光で撮ることで質感を出し蛸が妖しく見える、漁村の風景を撮影してみました。



【朝もや】 田布施町 西本篤史 (熊毛郡)

代掻き後、水を張った田んぼに朝もやがかかります。



【伝統の茅葺 (伊藤公生家)】 光市大和町 (伊藤公記念館) 田中隆義 (熊毛郡)

記念館見学に行つての出合。生家の茅葺のふき替と職人さんの伝統の技に感動しました。



【帰港】 下関市豊北 磯部彰六 (下関市)

夕日を撮影に行きました。漁船が漁を終えて帰港するところに遭遇しシャッターチャンスとカメラを向け撮影しました。



【勇姿との一瞬】 山口市阿東 林 良子 (宇部市)

SL見物とリンゴ狩りに行った時の一コマです。



【家路】 周南市中須 渡邊壽久 (下松市)

夕やみが迫るころ、田植えから間がない田を見回り、補植等を終えて自宅へ帰る農夫の姿はなぜか美しく楽しそうに見え、豊かな実りを祈るばかりの思いに浸る。

第20回

# 食料・環境「水・土・人・暮らし」 ふるさと写真コンテスト

入賞作品のご紹介

20th  
Furusato  
Photography  
Contest



## 山口新聞社賞

【青のり採り】 下関市豊北 中山 淳 (下関市)

今年は例年になく、採り初めが4月に入った。生育がわるく香りが悪いかもと心配されていた。ベテランの採る所を撮らせてもらった。



## 中国新聞防長本社賞

【夕陽の釣人】 光市室積海水浴場 嶋原範明 (光市)

夕陽のダルマを撮り始めて、6年目。思い通りの写真が無く、毎日、天気予報を気にしながら、9月から翌年の3月迄頑張っています。



## 山口ゆめ花博賞

【親子で楽しむ】 山口ゆめ花博 政村 茂 (下関市)

晴天に恵まれ朝から写真を撮った。竹コースターに乗った親子、花もきれいで楽しんでいる姿を撮りました。

Congratulations!!

／ 入選おめでとう!! ／

# 「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展2018

主催:全国水土里ネット・都道府県水土里ネット

**未** 就学の3歳児から  
小学校6年生まで  
を対象に開催される「ふる  
さとの田んぼと水」  
子ども絵画展。このコ  
ンクールは、「土や水に  
よって育まれた故郷の  
自然・文化、伝統はか  
げがえのないもの」で  
あると再認識するきつ  
かけになることを願っ  
て、毎年全国水土里ネッ  
ト・都道府県水土里ネッ  
ト主宰で開催されてい  
ます。

「新発見!ぼくのわた  
しのふるさと」をテー  
マに募集された201  
8年の絵画展には、全  
国から6、284点の  
応募があり、山口県か  
らは3名の方が入賞・  
入選されました。おめ  
でとございます。そ  
の作品をご紹介します。



入選

「一畝野の藤はきれいだよ。」

山口市立宮野小学校4年(当時)  
藤井 望結さん



入選

「いねかりをするおばあちゃん」

山口市立宮野小学校3年(当時)  
岩本 乃音さん



水土里ネット山口 会長賞

「おばあちゃんの作ったとまと どれ食べようかなあ~!？」

下松市立花岡小学校1年(当時)  
阿武 勇翔さん



山口ゆめ花博賞  
『春がまちどおしいなあ~』  
徳地西大津  
安田成輝 (山口市・小学3年)

春は、さくらや、しだれざくらなどいろいろな花があり  
ます。ぼくは、家にかえるとさくらがきれいだからつい  
ついため息がでるほどです。



山口県地球人会議会長賞  
『木のトンネル』 徳地伊賀地出雲神社  
三家本遙輝 (山口市・小学3年)

木にかこまれているところが好きでトンネルができてきそうです。昔からあって徳佐の人た  
ちがおまいりにきます。この写真を見るとどこからトンネルができてきそうです。徳地の自  
ぜんときしをあらわしています。



優秀賞  
『榎野川河口干潟で潮干狩り』  
山口市秋穂二島(榎野川河口干潟)  
原田優衣 (防府市・小学6年)

初めて潮干狩りをしました。たくさんとれました。  
毎年できるようになるといいなと思います。



優秀賞  
『日なたぼっこ』 富田川  
佐々木結愛 (周南市・小学6年)

寒くなってきて、日が当たる場所がカモた  
ちがのんびりする姿がかわいと思ったか  
らです。



優秀賞  
『吉香公園だいすき』 吉香公園  
岩崎葵衣 (岩国市・年中)

おたんじょうびうれしとでかかってもらったぼうすいかめら  
でとりました。おねえちゃんとおそんでたのしかったです。  
ことはおおあめでふんすいがこわれているから、なおつら  
らまたあそびたいな。

入賞



『大島の魅力』 周防大島町  
石原真人 (大島郡・中学2年)

だんだん畑があまりないのでこの写真にしました。



『日暮らし』 周防大島町  
藤原洗希 (大島郡・中学3年)

人の暮らしとかが癒る所ってこういう所にあるよね。な  
つかしさとか安心感とかそんなのを感じるよね。



『バンザイ』 公園  
中本 凜  
(大島郡・中学2年)

下にまつぼっくりがあつて、背  
景には公園と山があつたのでと  
りました。まつぼっくりにピン  
トがあつている所がいいと思  
いました。まつぼっくりになる前  
は閉じているけど開いた時のま  
つぼっくりがバンザイしている  
ように感じたからとりました。



『親子で植え直し』 防府市  
原田茉優 (防府市・中学3年)

毎年、お父さんの作業でしたが、今年は妹も手伝いま  
した。妹はなかなか上手で、お父さんも喜んでいました。

20th  
Furusato  
Photography  
Contest

主 催 / 食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議

山口県・水土里ネット山口

後 援 / 山口新聞社・中国新聞防長本社

# みんなで守ろう！ 活用しよう！ 棚田地域振興法

## Q & A

棚田地域の保全を目指す棚田地域振興法が令和元年6月に成立、8月16日に施行されました。

棚田地域は農産物の供給にとどまらず、国土の保全、水源の涵養、生物の多様性の確保その他の自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承などの“多面にわたる機能”を有しています。

しかし棚田は今、農業の担い手の減少や高齢化の進展などで荒廃の危機に直面しています。また、国の各府省庁の既存の施策で効果的と考えられるものがあるものの、十分に周知・活用されていない実情がありました。

そのため国が関係府省庁横断で総合的に支援する枠組みを構築し、棚田を核とした地域振興のための支援を行うことになりました。

### Q 棚田地域振興法の目的は？

A 「貴重な国民的財産」である棚田を保全し、棚田地域の有する多面にわたる機能の維持増進を図り、棚田地域の持続的発展及び、国民生活の安定向上に寄与することです。

### Q 棚田地域振興法の「棚田」とは？

A 「棚田」とは、傾斜地に階段状に設けられた田で①現に稲作が行われている場合、②稲作以外の作物が栽培されている場合、③作物の栽培が行われていないが稲作の再開が見込まれる状態の場合が該当します。

### Q 棚田地域振興法の「棚田地域」とは？

A 昭和25年2月1日における市町村の区域で、その区域内に、勾配20分の1以上の、一団の棚田の面積が1ヘクタール以上であることです。

### Q 棚田地域振興法の「手続きにはどんなものがあるの？」

A 主に、①指定棚田地域の指定、②指定棚田地域振興協議会の設置、③指

定棚田地域振興活動計画の認定、があります。

指定棚田地域や認定活動計画に対し、国からの支援措置等が講じられる仕組みです。

### Q 誰が指定棚田地域の申請を行うの？

A 都道府県が、あらかじめ関係市町村に協議し、国へ申請します。また、都道府県や市町村が積極的に動いてくれない場合、棚田地域振興活動に参加する人は次のことを提案できます。①都道府県に対して都道府県棚田地域振興計画の作成、②都道府県に対して指定棚田地域の指定申請、③市町村に対して協議会を組織すること。

### Q 指定棚田地域振興協議会の構成員は？

A 協議会の構成員は、当該協議会を組織した市町村のほか、農業者、農業者の組織する団体、地域住民、特定非営利活動法人、その他の指定棚田地域振興活動に参加する者とされており、地域おこし協力隊などの外部人材も積極的に活用されることが期待されます。

### Q 指定棚田地域振興活動計画とは？

A 協議会は、主体性に基づき目標や各年度において行う指定棚田地域振興活動の内容等を定め、都道府県を経由して国へ申請します。

### Q 指定棚田地域振興活動計画を作ると、どんなメリットがあるの？

A 国が必要に応じ、優先採択措置、優遇措置の追加、採択条件の緩和などの拡充措置を講じます。また、特定の事項が記載された指定棚田地域振興活動計画の認定申請は「みなし認定等」となります。

各地域でどんな事業が活用できるかについては「棚田地域振興コンシェルジュ」が相談に応じます。国は毎年度、指定棚田地域の振興に資する事業を公表するとともに、棚田地域振興コンシェルジュ等によって周知徹底を進めます。

### Q 「みなし認定等」とは？

A 「エコツーリズム推進全体構想」と「農山漁村活性化法計画」が、みなし認定等されます。指定棚田地域振興活動計画が棚田地域振興法の主務大臣（内閣府地方創生推進事務局がワンストップ窓口）に提出されれば、それぞれの計画の主務大臣に提出しなくても大丈夫です。

### Q 棚田地域振興コンシェルジュとは？

A 関係府省庁の棚田支援関連施策の担当職員、地元に近い地方出身機関の棚田振興に関わりのある職員などが務めます。

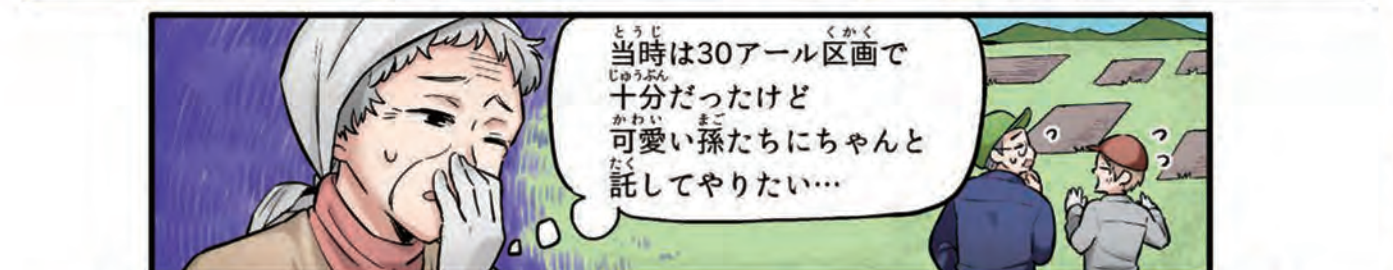
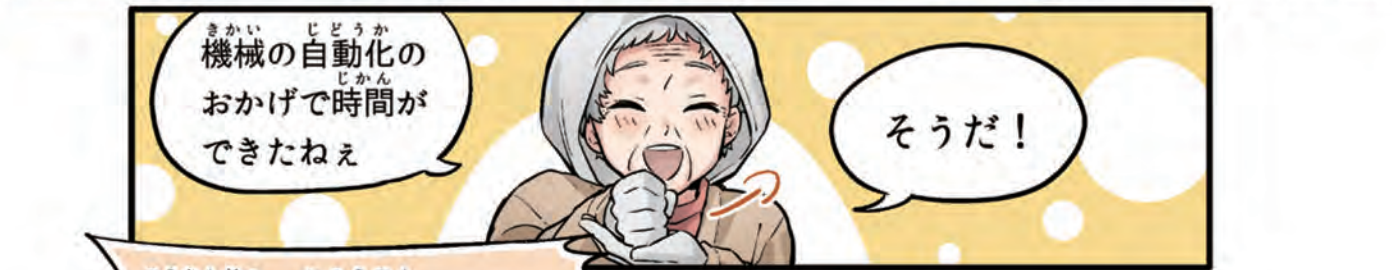


掲載の情報は、内閣府の情報をもとに作成しています。詳しくは、内閣府のホームページをご参照ください。

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tanada/index.html>



棚田地域振興法に関するお問い合わせ先  
山口県農村整備課計画調整班  
☎083-933-3423



【まんがで紹介する土地改良のお仕事③】

水士里ネット山口では、広く一般の方に土地改良事業について知っていただくため、さまざまな事業内容を「まんが」をつかってわかりやすく解説する取り組みを行っています。そのひとつを「紹介」します。





厚狭寢太郎堰

## とう しゅ こう 【頭首工】

「頭首工」とは、河川などに流れる水を農業用水として水路に引き込むために設けられる農業水利施設です。川の水位を上昇させて水路へと流し込むために、「水門」「堰堤」「土砂吐」「魚道」「流木路」等が設けられており、用水路の「頭にあたる部分」に設けられるためこの名があります。

頭首工の役割は、ダムのようにたくさんの水を貯めておくことではなく、水を取り入れて農地を灌漑することです。また、大きな洪水時には川を堰き止めているゲートを開き安全に水を流すという役割もあります。このため、頭首工では川の水位や水量を確認しながら適切にゲート进行操作・管理する必要があります。

稲作は多くの水を必要とするため、頭首工の建設は古来より行われてきました。古い時代には木枠や蛇かごに石を詰めた弱い構造のものでしたが、19世紀後半にコンクリートが実用化され洪水時でも耐えられる構造になりました。最近では開発途上国への日本のODAなどでも、技術協力のひとつとして頭首工を含む灌漑用水路整備を行っており、関心が高まっています。

発行

食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議 事務局

〒753-0079 山口県山口市糸米2丁目13番35号 水土里ネット山口 山口県土地改良事業団体連合会内  
TEL:083-933-0033 FAX:083-933-0048 URL:<http://www.yamadoren.or.jp/>